

第2回 中高一貫教育校 施設整備に係る説明会録

日 時：平成24年3月15日（木） 18時00分～19時00分

場 所：北海道札幌開成高等学校 志学館2階

出席者：地域住民、保護者等 ～ 7名

開成高等学校関係者 ～ 4名

札幌市教育委員会 ～ 8名

基本計画委託者 ～ 2名

司 会：札幌市教育委員会生涯学習部計画課計画係長

1 あいさつ

～ 札幌市教育委員会生涯学習部計画課長

本日はお忙しい中を、この中高一貫教育校の施設整備に係る説明会にお集まりいただきまことにありがとうございます。

中高一貫校の施設整備計画につきましては昨年の12月15日に開催をさせていただきました、まずは校舎の位置やそれから基本的な考え方をご説明させていただいたところでございます。

その後、皆さんからご意見をいただきまして、さらに検討を重ねてまいりましたが、教室配置を含めた施設整備の基本計画に関しましてご覧いただけることになりまして、本日、そのご説明の機会をいただいたところでございます。

敷地等の立地条件やあるいは、建築基準法などの工事の制約またあるいは予算の制約等ございまして、その様々な約束事のなかで、この仕様計画を検討してまいりました。

思い通りにならなかった分もございますけれども、それでも生徒や教職員の皆さんが1日の大半を過ごす施設であるということ、それから地域のコミュニティ施設であるということ、この視点が盛りこむことができたというふうに考えているところでございます。

このあと担当から詳しくご説明いたしますけれども、今後は平成24年度に基本・実施設計、平成25年度から2年かけまして、工事を行っていく予定でございます。

新しい学校の姿が見られるまで、あと数年かかりますけれども、今後とも中高一貫教育校の完成にむけまして、皆様のご協力を心からお願い申し上げまして、ご挨拶にかえさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 札幌市中高一貫教育校施設基本計画概要について【別添資料参照】

～ 札幌市教育委員会生涯学習部計画課施設整備係 技術職員

私からは先ほど受付でお配りしました札幌市中高一貫教育校施設基本計画概要の内容について説明いたします。

先ほども申し上げましたが、昨年12月15日に第1回説明会を開催させていただき、その時に新しくできる校舎の位置と中高一貫教育校の基本概要について説明いたしました。

校舎の位置についてはグラウンドの広さや日影等を考慮して仮設校舎を建設せずに、現在の野球グラウンドのある西側の位置に3階建ての新校舎を建設する案ということで承をいただきました。

また、今回札幌市ではじめて設置する札幌市中高一貫教育校の運営方針については従来小学校や中学校で行っている特別教室型というものではなく教科教室型という方式を採用する旨の説明をいたしました。

この教科教室型とは、全ての教科にその教科の学習に適した設備を整備し、教科の専門性を高めるとともに生徒自身の自主性を養い、異学年相互の学び合いの効果と学習意欲の喚起に適した運営方式であります。のちほどこれらについて改めて説明させていただきます。

それでは一番の計画コンセプトについて説明いたします。先ほど申しました、教科教室型に至る経緯コンセプトについてですが、6年間を通した学びの連続性、幅広い異年齢集団による学びあいをいかす、6年間にわたる見守りをいかす、この三つの重要な事業コンセプトをもと、さらに新校舎コンセプトを基に平面計画を検討いたしました。二番目の敷地概要についてですが、写真にもあるとおり敷地の約1キロメートル西部には地下鉄元町駅があり、また幹線道路も面しています。バス停も隣接していることから交

通の利便性は高い地域となっています。

つづきまして、隣にうつります。現況建物概要図が現在の開成高校の校舎は昭和 38 年に校舎が建設され、その後 4 回の増築を行っております。また武道場は昭和 47 年に建設され現在のかたちに至っております。

配置図に関してですが先ほども申し上げましたが、西側に校舎棟、東側にグラウンド、校舎北側にテニスコートを配置しております。なお屋内運動場については平成 3 年に建て替えられているため既存施設を再利用する計画をしております。

次に 4 . 平面計画の基本的な考え方について説明いたします。これについては先ほども言いました、1 計画コンセプトと関連しますが、中学校や高校の先生とわれわれ事務局の教育委員会が十数回話し合いを行いました。その中でコンセプトを実現していくために、どのような教室が必要か、また教科教室型の運営方式をどのように図面していくかなど、平面計画を考えるうえで肝となる部分であります。これらの内容については次の平面計画で説明いたします。

平面計画について説明いたします。全体の平面計画の特徴としましては、校舎内部は行き止まりがなく、中庭を中心に講義室と特別教室が回遊性をもってつながっております。また、ホールやラウンジ上部に吹き抜けを設け、自然光を積極的に取り込めるようにするとともに上下階の視認性を高め連続性のある校舎として計画いたしました。

教科教室型を採用するに当たっては生徒の居場所を確保するため、ホームルーム機能については各教科の講義室を割り当てします。こちらの写真にあるような、これが、講義室のイメージになります。朝の学活や昼食、帰りのホームルームについては、この割り当てられた講義室で行うことになります。朝の学活が終わり次第、この時間割の次の講義室に行って生徒自ら用意するということになります。

次に学年毎にラウンジを設置し、個人のロッカーやテーブルを設け、休み時間中でも生徒同士のコミュニケーションを築くための場所を計画します。これがラウンジのイメージです。ラウンジにはこのような生徒の私物を入れるロッカーなどを配置し、学年の集会が行えるようラウンジの向かいに講義室を一体的に利用できるよう計画しております。このように講義室とラウンジを可動間仕切りなどで仕切り、学年集会をやる時には一体でできるような、そのような計画を考えております。

そして、教科教室型の特徴としまして、各教科等に学習相談や教材、研究成果などを

展示する機能を併せ持つ教科センターを配置します。従来の、閉鎖的だった準備室は設けず、生徒と教師が常に相談しやすい環境を創出します。これが教科センターのイメージで、展示機能もしくは教材、先生がたで休み時間に相談できるような工夫をいたします。以上が全体的な平面計画についての特徴です。

次に各階の平面計画について説明いたします。

左側が校舎全体の平面図で右側が拡大した校舎等の拡大した平面図になります。1階は国語ゾーンと社会科ゾーン、職員室等を含む管理諸室を配置しております。

国語科ゾーンの講義室は1年生、社会科ゾーンは2年生のホームルーム教室として割り当てています。1年生の基礎期は、教師の見守りが重要になってくることから職員室と同じ階に配置しております。これが講義室のイメージです。職員室は中学高校の教員同士の連携が図れるように1か所にまとめて計画するとともにオープンなカウンター型とし、生徒が相談しやすい環境をつくります。また職員室の向かいにもコミュニケーションホールを設け、普段生徒と先生の語らいの場、または地域との交流の場としても利用していただけるような空間として考えております。なお、エントランスホールに面した国際交流コーナーというのは情報発信の拠点としても位置付けております。その他西側になりますが、保健室とカウンセリングルームというのも隣接して計画し、養護教諭とカウンセラーの連携が図れるようにして生徒の心のケアなどを十分に行われるように配慮しております。まあ、これは世界共通のことではありますが、バリアフリーに配慮いたしまして各階にエレベーターを設置するとともに、車いす利用可能な多目的トイレまたは階段の手すりや点字ブロック、こういったのもあわせて整備していきたいと思っております。

次に2階について説明いたします。2階は数学科ゾーンと理科ゾーンを配置しております。数学科ゾーンの講義室は3年、4年生のホームルーム教室として割り当てています。理科ゾーンは生地物化の4分野ごとに専用するのではなく、横断的に授業ができるように計画しております。

また、中高一貫教育校の設置に当たっては、教科全体において探求学習というのを重視しているため図書室を学校の中心の2階に設け、常に身近に感じてもらえるような図書室としております。これが図書室のイメージになっています。次に説明いたします3階にある情報コーナーと内部階段でつなげ、読書やレポート等の活動をサポートできる

ようにいたします。これが吹き抜けを介した階段、図書室のイメージになります。講堂は複数学年の場や、集会が行えるとするとともに、体育館の保管的な機能も併せ持つようにしたいと考えております。よって、屋内運動場と同じ2階に配置し相互利用ができるように考えております。校舎等の下側になりますが、こちらのほうに講堂を計画しております。併せて武道場も整備いたします。それと体育館の横になりますが今回災害の備蓄庫をアリーナの近くに配置します。物資等の供給が容易に行えるように考えております。

次に3階ですが、3階は英語科ゾーンと実技メディアゾーンを配置しております。英語科ゾーンの講義室は5・6年生のホームルーム教室として割り当てています。また6年生ゾーンと進路コーナーとを隣接させて、気軽に進路相談が行えるように計画しております。メディアゾーンは平面図にありますが、音楽室、美術室、金工木工室、書道室、被服調理室と情報処理室これはコンピューター教室のことであり、他の実技ゾーンをまとめて配置しております。美術室となりが屋外テラスを配置いたしまして、実際の授業や学校行事、学校祭のそういった行事の作品を屋外でもつくれるように考えております。この写真は3階から吹き抜けを見たイメージの写真ですが、階段の周りの吹き抜けを設けて開放的な空間として考えております。

次に6番目立面計画について説明いたします。実際の色彩だとか外装材といったものは来年度の実施設計において検討することになります。屋上には太陽光発電パネルを設置するとともに、その傾斜を利用して北側からも光を取り入れるような考えでおります。

なお、メインとなる西側道路においては、エントランスホールの吹き抜けはあとから、ガラス張りの透明感のある素材にして道路からの視認性も確保したい、そのように考えております。

次に7.断面計画について説明いたします。建物の階高は、講義室として適切な高さを確保する必要があるため3.6から3.8m必要となってきます。一方で周辺敷地に対し、圧迫感を出さないよう、校舎等の建物の高さは全体として約12mとしました。これは既存の校舎の高さとほぼ同じになります。講堂においては授業や部活動に対応できるよう天井の高さを8m確保しております。この講堂においても建物の高さは既存の屋内運動場より低く抑え、約15m程度といたしました。講堂下部はピロティ形としてグランド通路としても確保するとともに駐輪場としても利用できるようにいたします。なお校舎棟2

階と、既存の屋内運動場とのレベル差は約 2.6m ありますので、スロープ等により行き来できるようにして、車いすも利用できるように配慮いたします。そこからエントランスホールをはじめ、コミュニケーションホール、学年のラウンジ等についても先ほど平面計画の場でも説明いたしました。吹き抜け等も開放的な教室ができるように考えております。これが吹き抜けのイメージの写真です。

最後になりましたが、8.事業スケジュールについて説明いたします。今年度は基本計画を取りまとめ、来年度 24 年度には教室等の詳細の設計を行うため、基本実施設計を開始いたします。その後、フェーズ 1 といたしまして、校舎講堂の建設工事を平成 25 年の 6 月から翌平成 26 年 7 月まで行い夏休み時期に完成し引っ越しを行いたいと考えております。

次にフェーズ 2 といたしまして、新校舎引っ越し後 8 月頃から、旧校舎棟の解体工事を 12 月頃まで行います。それにあわせて北側のテニスコート及び東側の野球グラウンド、これを併せて造成いたします。平成 27 年 4 月に中高一貫教育校として開校いたします。

その後フェーズ 3 といたしまして、平成 27 年 5 月頃より屋内運動場へ接続する渡り廊下の建設工事、その他駐車場の外構工事、グラウンドで残っていますサッカーグラウンドと陸上競技場の造成工事を行い、平成 27 年 12 月頃には全ての工事を完成する運びとなっております。

なお、平成 25 年 6 月頃には工事が着手となりますので、その段階で改めて工事説明会を開催する予定でありますので、その時には作業時間や工事車両といった説明があると思います。皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、冒頭でも述べましたとおり、札幌市で中高一貫教育校を設置することは初めてのことです。校舎計画にあたっては、手探りの状態で、現在進めております。ただ生徒や先生、父兄の皆様に愛され地域の皆様に愛着を持ってもらえるような校舎をつくりたいと思っておりますので、皆様方のご理解ご協力のほどを重ねて申し上げます。ご静聴ありがとうございました。

【追加説明】～ 札幌市教育委員会生涯学習部計画課計画係長

今の資料の 1 番の計画コンセプトのところから 4 番のところまでは前回の説明会でご説明させていただいたところがございます。今回新たに 5 番目も各階平面図以降が、今

回ご説明の中核というところになってございます。前回の説明会の時にも、お話しさせていただきましたとおり、改築、新しい学校をつくる際には地域の方々への日影、日蔭の問題とか、今回は特に校舎の位置が現状と変わるということで、地域の方々はこのへんを重視されるのじゃないかということで、そこにつきましては3階建てで圧迫感がなく、日影も道路内で全部おさまる、民地の方には一切入っていかないというようなかたちで計画しているところでございます。それと最近は昨年度の震災とかもあったことから、学校は避難所になりますので備蓄庫ですとか屋上には太陽光、これもなるべく多く載せたいと、30キロワット程度、大きな容量を載せましてですね、災害時には、この電気も使えると考えております。それとあと環境に配慮というようなこともございまして、先ほども言いました、芝生ですとか緑を多く設置していきたいというふうにも思っております。あと暖房施設も今、ペレットボイラーというものを今回の改築校の中では暖房として考えているところでございます。今回各階ごとの平面計画案ということで皆さんにご説明させていただきました。こちらにつきまして何かご質問等ございましたらお受けしたいと思います、いかがでしょうか。

3 質疑応答

【質問1】・・・（参加者1）

今、採光の問題ですとか生徒の健康に関するお話しをされてこられたと思うんですけども、開成高校の既存の体育館は平成3年度に建ったところを残して、ということでしたが、西側の2-1、2-2、北側に4-1、4-2くらいに、昼食をとったり集まったりするような場所があるというようなことで、先ほどお話しされましたけれども、この辺の中の細かいことに関しましては、例えば職員室が南東の方角になりますので、採光においてはいいと思うんですけども、もう少し生徒の人たちがよい環境と言うか、日のあたる教室というようなタイトルにもありますように、北とかそっち側のほうじゃなくてですね、校舎西側に面しますので西と東に面する構造になっておりますので、そのへんの細かいゾーンの移動といいますか、大きく変えられないと思うんですけども、その辺の見通しは今後どうなのか、ちょっとお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【回答1】・・・（計画係長）

まず、今おっしゃられたとおり、子どもたちが常に使う教室をなるべく日が当たる明るい雰囲気にしたということ、講義室は東側にメインでとってございます。

1階だと西側のほうに位置する教室もございますが、今回は、その辺も考えまして、中庭、吹き抜けを真ん中に大きく取っておりますので、日は入ると思っております。

それと各階のラウンジ、ここは休み時間ですとか、子どもたちが常日頃集まる場所ですので、上はだいたい吹き抜けとなっております。子どもたちのいるところには、光が入るようにしたいということで、今回のご質問の光に関しましては、かなり気を使って造ったつもりでございます。

それと、教室の配置を変えられないか、というお話ですが、先ほどの説明の中でも平成24年度、1年間かけまして実施設計ということで、詳細な設計に入ります。

その中で、学校さんのほうから、どうしても教室の位置を変えてほしいですとか、そういうのは、実施設計の中でも変更は可能です。

実際に、実施設計に入ったときには、技術的に変えなきゃならないということは出てくるとは思います。あくまで今のところは、こういう案でいけたらなという事で提案でございます。

【質問2】・・・（参加者2）

一番最後のページにですね、フェーズ123とあって、工期に関して校舎やグラウンドなんか、詳しく出ているんですけども、グラウンドに関してですね、例えば開成高校の部活はどうなるんだ、というようなご心配をされている仲間といいますが、保護者の方々、部活が成立するのかとか、どんな施設、部活のスペースになっていくのかという市民の皆さま方に聞かれます。ここの野球に関しましては、練習試合等はしていないような学校ですので、その辺の細かいようなところは、どんな考え方になっていくのでしょうか。

【回答2】・・・（計画係長）

詳細については、これからまた学校さんのほうと、いろいろ部活の方法で、野球なん

かは中学と高校で軟式と硬式とか、違いもあるというのは聞いてございますので、それを含めまして、どういう部活ができるのか、グラウンドの配置といいますが、造り方も若干変わってくるかと思いますが、グラウンド造成についてはこれから、お話し合いをしながら、やっていきたいと思っております。

【質問 2 - 2】・・・（参加者 2）

開成高校は、大変部活動が盛んな学校でして、今野球の話しをされましたけれども、例えば、中学生と高校生が硬式のボールと軟式のボールとが、というイメージでなかなかボールが飛んできて危ない状況があると思います。

そうした場合において、例えばプレハブのような室内をつくっていただいて、安全に配慮しながらの、あの例えば中学生の部活動とか、そういった事故というか、ちょっと中学高校と同じグラウンドでやるというのはできないと思いますんで、そういった他校にない、特別な何かを考えられ、そういった施設設備、ネットをちょっと多くつける、支柱を立てる、ネットを高くするための高い支柱を立てるですとか、そういったようなグラウンドに関して、いまのところ何か特別に配慮されているとか、そういったところはあるのでしょうか。

【回答 2 - 2】・・・（計画係長）

なにぶん決められた敷地ですので、この範囲の中で、学校さんの今後の方針に基づいて、できる限りのことはしたいとは思っていますが、今の段階で、まだその部活もどうなるか、まだ決まってないというふうに聞いてございますので、その辺が決まったあと、どうしてもここを変えるなどの話をしていきたいと思っております。

また、今、屋運の1階というんでしょうかね、ピロティ部分にも確か使われているところがありますが、そこも、人工芝を貼り直してという計画も持っていますし、今回、講堂や武道場も新しく設置しますので、その辺は、やっぱり学校さんの運営の中でやりくりしていただかなきゃならないところもあります。

設備としては、グラウンド部分でこんなのがほしいというのがあれば、可能な限りで、つくってはいきたいと思っておりますが、グラウンド造成は最後の方になり、まだ少し時間がございますので、その中でいろいろご相談させていただきながら、決めていき

たいというふうに思っております。

【質問3】・・・（参加者3）

職員室はカウンター型ということで、扉がない職員室という形になるイメージなのか、吹き抜けが結構多い部分があるんですけども、その辺の安全面だとかということは、どのような配慮をされているのでしょうか。

【回答3 - 1】・・・（計画係長）

まず、職員室のほうは、これも皆さん方のご意見といたしますが、今回は中学の先生、高校の先生で、プロジェクトチームというのをつくっていただきまして、そういう中のご意見もいただきまして、大通高校の職員室がオープン型のカウンター式となっておりますが、そういうのがいいのではないかとということで、そう考えてございます。

それと教科センター、これははじめてになりますが、これはどちらかというとオープンで、先生方は職員室にいらっしゃったり、教科センターのほうにいらっしゃったりというような形で、子どもたちは、どちらかに行けば先生にご相談できるような仕組みになっております。

どちらもオープンですので、先生方も、あまりオープン過ぎても困る部分もありますので、作業をする部屋を用意いたします。

【回答3 - 2】・・・（施設整備係 技術職員）

それは職員室の中に個別に相談するような部屋だとか、教科センターの中においても、閉鎖的にもしなければいけない、といったような教科もございますので、そういったところはこれから実施設計の中で、小部屋をつくっていきたいなと思っています。

先ほどいったように、職員室に関しては基本的にオープンなんですが、ただ逆に当然セキュリティーの問題もありますので、例えば生徒がいなくなったときには上部からシャッターが降りてきて入れないようにしたり、そういったようなことは考えています。

また吹き抜けに関しても、確かにこの吹き抜けもいいのですが、全部をオープンにするということだけでなく、例えば天井までガラスにしたりですとか、そういったことで、転落防止ということも、これから検討していかなければいけないなというふうには考え

ています。

【質問4】・・・（参加者4）

スケジュールの中で、26年の8月引っ越しということで、引っ越し予定が入っているんですけども、そこから夏休み明けくらいまでに新校舎を使い始めることになるんでしょうか。

【回答4】・・・（計画係長）

そうです。夏休み期間で引っ越し作業をしていただきまして、明けから使っていただきますので、中高一貫校は、翌年27年4月ですけど、まあ、今の在校生も半年間使えるというような形になります。

【質問5】・・・（参加者5）

今の現校舎では、出入り口が三か所あると思うんですけども、正面玄関、生徒玄関。今回の場合、一か所しかないということが、非常時の避難路としては、どうなんでしょうか。

【回答5】・・・（計画係長）

最近の新しい学校につきましては、防犯の問題もございまして、極力、昇降口を大きく一か所に、そこで電気錠とかで防犯チェックをかけます。

それと昇降口の周りの1階には、職員室ですとか、事務室、用務員室、保健室等、ようするに管理諸室を一点に集中いたしまして、防犯対策それと職員室からグラウンド面も見渡せるためにということにしております。

ただ、万が一の災害時には、例えば反対側のところに非常口的な出口そういったところなどを、通常使わないけど非常時に出来るような扉を付ける予定になっております。

ほかに、どうでしょうか。

(他の質問なし)

(閉 会)

それでは、昨年といたしますか、今年度の4月以降ですね、先ほどもお話ししましたとおり、初めての中高一貫校ということで、中学の先生、高校の先生がたのプロジェクトチーム、ここからのご意見とかも参考にいただいています。そのほか、開成高校の先生がたのほうからのご意見等を頂戴してございます。

それと先ほどもちょっとお話しいたしました町内会の代表の方々、PTA、同窓会代表の方々等、意見交換させていただいております。

そして、今日、このように地域の方々とも二回ほど意見交換させていただき、今回は中高一貫ということもあるため、通常、小・中学校の際は地域の方だけなのですが、教育委員会のホームページで、今日の資料なども掲載したいと思っております。

一年間かけまして、ようやくその校舎の位置や各階の平面案ができてきたところでございます。

先ほどの工事スケジュールでもありましたとおり、24年度、1年間かけまして実施設計ということで細かい設計に入ります。先ほどもいきました実施設計の中で、教室の配置とか、若干変更することも出てくるかとも思いますが、基本的にはこのようなかたちになっていくのかなと思っております。

平成25年度から工事着手予定ということになってございます。工事着手前には、工事を担当する都市局の建築部というところがございまして、そちらのほうから工事説明ということで、また地域の方々に説明会を開催させていただいて、工事期間中も安全に施工できればというふうに思っております。

今日は長時間におよびましてご参加いただきありがとうございました。これで第2回目になりますが、中高一貫校の施設整備にかかる説明会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。